

河川事業の再評価概要書

()は、前回評価時

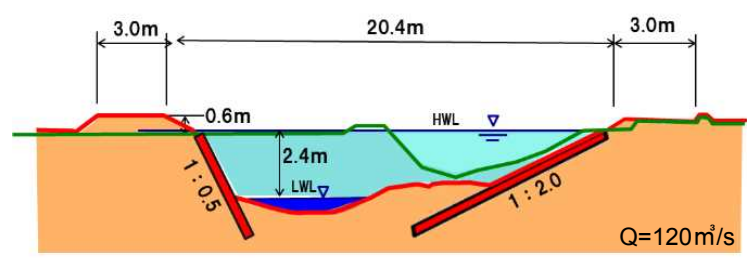
河川事業の再評価概要書			番 号	2
			事業主体	栃 木 県
事業名	安全な川づくり事業		事業主管課	県土整備部 河川課
路河川名	一級河川 ^{すがたがわ} 姿川		事業箇所名	^{うつのみやししろやま} 宇都宮市城山
事業区間	^{うつのみやししもあらはりまち} 宇都宮市下荒針町地先～ ^{うつのみやしおおやまち} 宇都宮市大谷町地先		事業延長	L= 4,000m
H12年度 事業化	H12年度 用地着手		H12年度 工事着手	
事業期間	H12年度～R5年度		基準年次【令和元年度末時点】	進捗率
[うち用地補償費] 全体事業費	[12.5(11.0)億円] 35.9(30.6)億円			[うち用地補償費] [11.7億円] [94%] 既投資事業費 33.4億円 93%
事業概要				
<p>一級河川 姿川は、宇都宮市北部の古賀志山地の鞍掛山にその源を發し、宇都宮市西部を流下した後、小山市半田地先で思川に合流する河川である。</p> <p>本事業区間は、主要地方道宇都宮・鹿沼線の北部に位置し、姿川橋（宇都宮市下荒針町）から大谷橋上流（宇都宮市大谷町）までの区間であるが、河道断面が狭小であり、流下能力が不足しているため、豪雨時には宅地や農地等に浸水被害が生じている。</p> <p>このため、本事業は、掘削や築堤、橋梁架け替え等により、河道断面の拡大を図り、氾濫を防止し被害の軽減を図るものである。</p>				
事業を巡る社会経済情勢の変化、技術革新、事業計画の大幅な変更等				
「平成27年9月関東東北豪雨の出水被害を踏まえた護岸の見直し」や「河床に岩が確認されたことに伴う掘削工単価の増」、「労務単価の上昇及び消費税の増税」により、全体事業費を見直した。				
事業の投資効果				
① 費用対効果分析		【総便益(B)】	【総費用(C)】	
1) 事業全体		B/C=3.5	205.4億円	59.1億円 [L= 4,000m]
2) 残事業		B/C=1.3	3.2億円	2.4億円 [L= 487m]
② 事業の整備効果等				
整備を図ることにより宅地や農地等の浸水被害が解消される。				
事業の進捗状況等				
① 事業の進捗状況				
事業延長L= 4,000mのうち、下流より整備を進め、L= 3,513mの整備が完了している。				
② 今後の事業進捗の見込み				
残る区間の用地取得及び工事を推進し、令和5年度を目標に事業完了を図る。				
コスト縮減等				
① コスト縮減方策				
発生土を近接公共工事に流用し、コスト縮減を図る。				
② 代替案立案等の可能性				
遊水地や放水路による計画では、現計画以上に用地取得が必要となり、また、用地取得や工事に要するコスト等を考慮すると、代替案の立案は困難である。				
事業の対応方針（案）		本計画で事業を継続する。		

事業箇所(位置図、概要図)

位置図



標準横断面図



鏡川合流点上流

- 計画規模 : 1/10確率
- 現況流下能力流量 : $Q=20\sim50\text{m}^3/\text{s}$
- 計画勾配 : $1=1/200$
- 計画流量 : $Q=120\sim300\text{m}^3/\text{s}$

凡例	
—	改修前の横断
—	改修後の横断
—	平常時の水位
—	計画高水位

概要図



①改修前
下川橋上流



②改修後
下川橋上流

